

「短信」

「あなたの思う国語の魅力は？」

石井 彬

学校に近づけば近づくほど、やり場のない苛立ちが募るときがあります。きちんと断っておきますが、勤務校へのネガティブな感情がこみ上がって、そうなるわけではありません。観光地の宿命でしょうか。車の流れが本当に止まります。時として、通う10kmのうち、最後の1kmだけで、全体の半分の時間を占めることもある程です。観光地、別荘地、避暑地として有名な軽井沢町。そんな軽井沢町、ただ一つの中学校、軽井沢中学校に勤めて4年目になりました。

初任者として赴任し、文字通り右も左も分からないところからスタートしましたが、4年目となる今年は3年生の学級担任・生徒会顧問・教育課程授業者なども任せていただいています。教育課程本番を10月に控え、7月上旬に事前授業が行われました。その際、主事の先生から「あなたの思う国語の魅力は？」と質問されました。

私が以前から思い続けている魅力は、「言葉の広がり」です。例えば教科書の同じ文章（言葉）を読んでも、そこから広がる世界はその人その人で異なり、膨らむ想いもその人その人で異なり、それらを伝える語彙もその人その人によって異なる。そういう部分に言葉の広がり・自由・豊かさがあり、それが魅力だと思っています。そんな魅力を子ども達に感じてほしいと願って国語の教師を目指したはずでした。しかし、なんだか最近、そういう思いを忘れかけていたように思います。テストや受験を意識するあまり、得点力向上に意識が向いていたことは否めません。教えるべきことはそれでいいのだろうか。塾や個人学習とは違って、学校だからこそ、色んな人がいるからこそ、そういう国語の魅力を伝えられるんじゃないか。自分が胸に抱いていた根本の思いを見逃していました。言葉の広がりを感じてもらえるような、そしてそこに楽しさを見出してもらえような授業を子ども達と創り上げていきたいと心新たに思っています。

（いしい あきら 軽井沢中学校）